

鹿大病院 多様な発作症状に対応

「てんかんセンター」開設

鹿児島大学病院は今年3月、国立大学病院では3番目となる「てんかんセンター」を開設した。脳神経外科、小児科、神経内科、精神科が連携を強化して、多様な発作症状があるてんかん患者に適切に対応していくのが目的だ。

(西元貴子)

てんかんは、大脳の神経細胞の電気信号の突然の乱れにより、けいれんや意識消失が起る病気。患者は全国に100万人以上いると推測されている。

突然手足が突っ張ったり、ぼんやりしたり、吐き気をもよおすなど、症状は多岐にわたるため、精神障害や認知症などと区別がつきにくく、てんかんであることが見過ごされたり、一つの診療科で対応しきれないケースもある。

治療も、抗てんかん薬の服用による薬物療法が主流だが、薬が効かない場合には、外科手術で対応する場合もある。

相談しやすい体制構築

センターは、診療科の枠組みを超えた医師がチームを組み、個々の患者の症状に合わせた治療を進めるのが狙いだ。

センター長を務める鹿児島大学病院脳神経外科の花谷亮典講師は、「初診から

薬物治療、外科手術にいたるまで窓口を一本化することで、患者さんも相談しやすい体制をつくった」と話す。



会を開いている。今後、ホームページを開設予定で、将来的には、専従スタッフを配置するなどして、体制充実を図っていく方針だ。

花谷センター長は「何年もの間、てんかんの診断がつかないまま、症状に困っている人も多い。てんかんが疑われる人、発作が止まらず悩んでいる人は気軽に相談してほしい」と呼び掛けている。

公益社団法人日本てんかん協会鹿児島県支部の原田秀逸代表は「医師の連携が組織化されたシステムティックなてんかん治療体制が確立されつつあることは、患者にとっても喜ばしい」と歓迎した。

問い合わせは、鹿児島大学病院脳神経外科 099(275)58828まで。

「てんかんが疑われる人は気軽に相談してほしい」と話す花谷亮典センター長 鹿児島市の鹿児島大学病院